

CAVI-ABI 検査

近年では内臓脂肪蓄積を基盤としたメタボリックシンドローム患者では、これらの疾患が軽度または発症していなくても、重複すると心血管疾患のリスクが上昇するともいわれています。高血圧や脂質異常症、糖尿病など生活習慣病は危険因子です。CAVI（動脈の硬さ）・ABI（動脈のつまり）を測定することで動脈硬化の程度を数値として表すことができます。

キャビ

CAVI(Cardio Ankle Vascular Index:心臓足首血管指数)とは、心臓から足首までの**動脈の硬さ**を反映する指標です。**動脈硬化が進行すると高値になります。**

エービーアイ

ABI(Ankle Brachial Index:足関節上腕血圧比)とは、足首の血圧を上腕の血圧で割ったもので、**足の動脈の狭窄・閉塞**を評価する指標です。**値が低くなるに従って狭窄や閉塞を疑います。**

どんな検査？

頸動脈超音波検査も同時に行うことでさらに詳しく血管の状態が把握できます。

CAVI、ABI は同時に測定が可能です。
仰向けに寝た状態で、両側の上腕と足首に血圧計のカフを巻きます。
所要時間は5分程度の簡単な検査です。

結果判定

●CAVI 基準値

CAVI < 8.0	正常範囲
8.0 ≤ CAVI < 9.0	境界域
9.0 ≤ CAVI	動脈硬化の疑い

★CAVI 低い・・・柔らかくしなやかな血管

★CAVI 高い・・・硬い、膨らまない血管

●ABI 基準値

0.91 ~ 1.4	標準値
ABI ≤ 0.90	末梢動脈疾患の疑いあり
1.41 ≤ ABI	足首の血圧が高め(石灰化などの疑い)



※検査イメージ

結果レポート(例)

検査結果レポート

測定日: 年 月 日

氏名: 年齢: 65 歳 性別: 男

ID: 病棟: 病室: 入院日: 135 / 81

医師名: 検査結果

体重: 61.8kg BMI: 21.1kg/m² HR: 72(拍/分)

項目	測定値	標準値	検査結果
CAVI	7.6	~8.9	血管の硬さは50代後半に相当します。
ABI	7.5	(0.7±0.8)	血管の硬さは50代前半に相当します。
ABI	1.19		正常範囲です。
ABI	1.21	0.91~1.40	正常範囲です。

検査の結果は、いかがでしたか？

定期的な検査で結果を時系列で見ることがもできます

裏面には

結果の解説付き

検査結果でわかります

CAVI (心臓足首血管指数)
動脈の硬さを表しています。ABIの値が低くなるに従って、狭窄や閉塞の可能性が高くなります。正常範囲は0.91~1.4です。

ABI (足関節上腕血圧比)
足の動脈の詰まりの程度を表しています。ABIの値が低くなるに従って、狭窄や閉塞の可能性が高くなります。正常範囲は0.91~1.4です。

CAVIの評価基準
CAVI < 8.0 動脈硬化の疑いあり、9.0 > CAVI > 9.0 境界域です。CAVI < 8.0 正常範囲です。

ABIの評価基準
ABI < 0.90 末梢動脈疾患の疑いあり、1.41 ≤ ABI 足首の血圧が高めです。(石灰化などの疑い)

血管年齢判定グラフ
今回のCAVI計測値(縦軸)と被検者の実年齢(横軸)の交差する所に丸印をマークします。相当年齢は、計測値から実年齢と標準偏差を考慮して求め、下矢印線で相当年齢を示します。左右のCAVIを計測した場合には右足を黒丸●、左足を緑丸●で表示しています。

BMI (肥満度・体格指数)
BMI (kg/m²) = 体重(kg) ÷ 身長(m)²
BMIが25以上の場合は肥満とします。

今、動脈硬化の患者さんが増えています

動脈硬化になると、こうなります→

動脈硬化はあまり自覚症状がありません。しかし放置すると、狭心症・心筋梗塞・脳出血・脳梗塞など命にかかわる疾患の原因となります。

定期的な検査を受けて、動脈硬化の早期発見と治療に努めましょう